

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370056

研究課題名(和文)《八千頌般若》諸本対照研究 ガンダーラ語写本・漢訳七種・梵本・蔵訳の比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of the various versions of the Astasahasrika Prajnaparamita, namely the Gandhari, Sanskrit, Chinese and Tibetan versions

研究代表者

辛嶋 静志 (Karashima, Seishi)

創価大学・付置研究所・教授

研究者番号：80221894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：《八千頌般若》十二種のテキストを対照した『《八千頌般若》諸本対照』を作成し、95%完成した。漢訳七種、すなわち『道行般若経』(西暦179年訳)、支謙訳(222-257年訳)、『摩訶般若鈔経』(3世紀後半訳)、鳩摩羅什訳(408年訳)、玄奘訳第五会(660-663年訳)、玄奘訳第四会(同)、施護訳(982年訳)、ガンダーラ語写本・梵本・チベット訳・英訳を対照した。支謙訳『大明度無極経』(西暦222-257年訳)の詞典も八割方できた。ガンダーラ語《般若経》断簡の英訳作業もほぼ終了した。ギルギット出土の《般若経》梵語写本(七世紀初頭の書写)のファクシミリ版と解説を出版した。

研究成果の概要(英文)：The present author collocated the following twelve versions of the Astasahasrika Prajnaparamita, namely the Daoxing Banre jing (translated by Lokaksema in 179 C.E.), Da Mingdu jing (by Zhi Qian [fl. ca. 220-57 C.E.]), Mohebanre Chao jing (by Zhu Fonian in the latter half of the third century), Xiaopin Banreboluomi jing (by Kumarajiva in 408 C.E.), the fourth assemblage of the Da Banreboluomi jing (by Xuanzang in 660-663 C.E.), the fifth assemblage of the above-mentioned translation by Xuanzang, Fomu Chusheng Sanfazang Banreboluomiduo jing (by Shihu or Danapala in 982-? C.E.), a Gandhari fragmentary manuscript, the Sanskrit version, the Tibetan translation and an English translation. This collocation table is close to completion. 80% of a glossary of Zhi Qian's Da Mingdu jing has been completed. A English translation of the Gandhari version has been prepared. He also published a facsimile edition of the Gilgit manuscript of the Larger Prajnapramita, provided with an introduction.

研究分野：中国哲学・印度哲学・仏教学

キーワード：般若経 八千頌般若 ガンダーラ語 支婁迦讖 支謙 中古漢語 大明度無極経 大乘の成立

1. 研究開始当初の背景

《八千頌般若》は最も古い大乘經典の一つである。この經典は、紀元後 179 年から 982 年に及ぶ八百年の間に七回漢訳されている。さらに 8 世紀以降に訳されたチベット訳と 11 世紀以降のネパール出土梵本写本とがある。従来の研究は、これら諸本のうち、主として鳩摩羅什訳(408 年訳)・玄奘訳(660-663 年訳)・梵本・チベット訳に基づいて行われていた。ところが今世紀に入って、紀元後 47-147 年に遡るガンダーラ語写本が発見された。この写本は最古の漢訳大乘經典である支婁迦讖訳『道行般若經』(179 年訳出)の原本と同時代のものである。筆者は『道行般若經』の原語がガンダーラ語であったこと、さらに《八千頌般若》自体が本来、ガンダーラ地方でガンダーラ語で創られたことを証明した。そして、後世になって(おそらく二、三世紀)梵語に翻訳されたと推定している。また《八千頌般若》の諸本は、時代毎に次の三つのグループに分かれる。(一)最初期テキスト群:ガンダーラ語写本、『道行般若經』(179 年訳)支謙訳(222-257 年訳)、『摩訶般若鈔經』(3 世紀後半訳)(二)中期テキスト群:鳩摩羅什訳(408 年訳)玄奘訳第五会(660-663 年訳)パーミヤン出土梵語写本断簡(紀元後 2~3 世紀)(三)後期テキスト群:玄奘訳第四会(660-663 年訳)施護訳(982 年訳)ネパール出土梵本写本(11 世紀以降)チベット語訳。これら三つのグループの中でも、(一)と(二)・(三)の間には、量的のみならず、質的にも大きな変化がある。従って、《八千頌般若》を思想史的に研究するには、これら諸本の一語一句を比較し、違いを明らかにする必要があると考えた。そこで上記諸本と英訳を加え都合十二種のテキストを対照させることを計画した。

2. 研究の目的

《八千頌般若》は最も古い大乘經典の一つである。《八千頌般若》の生成・発展・変遷を明らかにすることは、とりもなおさず大乘仏教の生成・発展・変遷を明らかにすることになる。《八千頌般若》の漢訳・ガンダーラ語断簡・梵本・梵本断簡・チベット訳を一字一句対照することによって、《八千頌般若》の量的・質的内容の違いはもとより、テキストの増広・削減・変化・改訂を詳細に跡付けることが可能である。このような基礎作業を踏まえてこそ、最初期・中期・後期のテキスト群の違いをはっきりさせることができる。また筆者は《増広般若經》(《一万八千頌》、《二万五千頌》など)は、《八千頌般若》を敷衍したものであり、いわば注釈と捉えるべきと考えている。では、『放光般若經』・『光讚經』・『摩訶般若波羅蜜經』・ギルギット写本《一万八千頌》・梵本《二万五千頌》・チベット訳などが、それぞれ《八千頌般若》の最初期・中期・後期のテキスト群のどれを注釈したものか、上記対照表を元にして、これら

の対応関係を明らかにすることができる。

3. 研究の方法

《八千頌般若》の生成・発展・変遷を明らかにするために、次の幾つかの計画を実行した。

(一)《八千頌般若》十二種のテキストを対照した『《八千頌般若》諸本対照』を作成する。

(二)呉の支謙(西暦 222-257 年に翻訳に従事)が訳した『大明度無極經』の詞典を作成する

(三)筆者が Falk 教授と共著で、2012 年と 2013 年に出版したガンダーラ語《八千頌般若》写本断簡の英訳と語学的注記を作成する。

(四)《般若經》の成立背景、成立地と成立時代を明らかにする鍵である「常啼菩薩品」の漢訳・梵本・チベット訳ヴァージョンの比較研究をする。

(五)ギルギット出土の《増広般若經》梵語写本(七世紀初頭の書写)のファクシミリ版と解説を出版する。

以上の計画を達成のために、《八千頌般若》や大乘仏教に関連する諸文献を集め; 仏教梵語を中心とするインド学の書籍、仏教学関連の書籍、漢語史関係を主とする中国学の書籍を購入し; データを迅速に処理するために、コンピュータを購入し; また留学生若干名に、ガンダーラ語・仏教漢語のデータベースの構築を手伝ってもらった。さらに研究成果を国内外の研究雑誌で発表した。

4. 研究成果

この研究の成果としては次の五つがある。そのうち、(5)はすでに出版し、(1)-(3)は 2018 年あるいは 2019 年の出版を目指している。

(1)《八千頌般若》十二種のテキストを対照した『《八千頌般若》諸本対照』を作成し、95%完成した。漢訳七種、すなわち『道行般若經』(西暦 179 年訳)支謙訳(222-257 年訳)、『摩訶般若鈔經』(3 世紀後半訳)、鳩摩羅什訳(408 年訳)玄奘訳第五会(660-663 年訳)玄奘訳第四会(同)施護訳(982 年訳)の他、ガンダーラ語写本・梵本・チベット訳・英訳を一字一句対照したものである。漢訳は、大正蔵以外にも金蔵・高麗蔵・各種宋版などを参照して、校訂本の体裁もとっている。大変大部なものなので、どのように公表するか検討している。

(2)《支謙訳『大明度無極經』(西暦 222-257 年訳)の詞典も八割方できた。上記の『《八千頌般若》諸本対照』とこの詞典から、支謙訳は、インドの原典からの翻訳というよりは、むしろ音写語など不自然な表現の多い支婁迦讖訳『道行般若經』を文言化した“焼き直し”であることを明確にすることができた。

この発見に関して国内外で発表をした。この辞典には、対応する『道行般若経』の訳語の他、梵蔵漢の諸本の対応語を記載している。この辞典は、他の多くの支謙訳仏典を読む際に、確固たるツールになる。また、この辞典で取り扱う訳語を基準に、支謙訳かどうか議論のある經典の真偽を判断することができる。と考える。

(3) ガンダーラ語《八千頌般若》写本断簡の英訳作業はほぼ終了した。

(4) 「常啼菩薩品」の漢訳・梵本・チベット訳ヴァージョンの比較研究は、まだ半分ほどしかできていない。

(5) 国内外の若手研究者の協力を得てパキスタン・ギルギット出土《増広般若経》梵語写本のカラー写真版を出版した。250枚一葉一葉の写真には、対応する漢訳・梵語校訂本・チベット語訳諸版の対応箇所を明示した。この《増広般若経》写本は、七世紀初頭に王家の発願で書写されたものであり、由緒正しいものである。しかも全307葉のうち、297葉が残っている貴重な資料である。うち46葉の現所在は不明だが、イタリアのTucciが写真を撮り、そのコピーを筆者は入手した。この写本のローマナイズと、諸漢訳・梵本・諸チベット語訳との対照も、数人の研究者の協力を得て完成した。これもいずれ出版する予定である。

《八千頌般若》は大乗仏典の基本テキストであり、この經典の生成・発展・変遷を明らかにすることは、大乗仏教の生成・発展・変遷を明らかにすることになる。今後さらに、《八千頌般若》とそれを敷衍した《増広般若経》との関係を明らかにする必要がある。将来的には、二つの經典の言語・用語・思想の何が連続し、何が変遷しているかを、文献学的に明らかにしたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計15件)

辛嶋静志、"Who Composed the Mahayana Scriptures?--- The Mahasamghikas and Vaitulya Scriptures", in: *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, vol. 18 (2015): 113-162. (査読無)

辛嶋静志、"Vehicle (*yana*) and Wisdom (*jñāna*) in the Lotus Sutra --- the Origin of the Notion of *yana* in

Mahayana Buddhism", 同 163-196. (査読無)

辛嶋静志、「漢譯佛典語言研究的意義及方法」《國際漢學研究通訊》10 (2015, 4), 北京: 北京大學國際漢學家研修基地編: 北京大學出版社, pp. 322-342 (査読有)

辛嶋静志、「試探《維摩詰經》的原語面貌」, 《佛光學報》新一卷・第二期 (2015, 7), pp. 73-100 (査読有)

辛嶋静志、「『維摩詰經』の原語の様相」, 『三友健容博士古稀記念論文集 智慧のともしび アビダルマ佛教の展開』, 東京: 山喜房佛書林 (2016, 3), pp. 355(607)-333(630) (査読無)

辛嶋静志、"Indian Folk Etymologies and their Reflections in Chinese Translations -- *brahmana*, *sramana* and *Vaisramana*", in: *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University*, vol. 19 (2016): 101-123. (査読無)

辛嶋静志、"The *Tristubh-Jagati* Verses in the *Saddharmapundarika*", 同 193-210. (査読無)

辛嶋静志、"Meanings of *bian* 變, *bianxiang* 變相 and *bianwen* 變文", 同 257-278. (査読無)

辛嶋静志、「觀音(*Avalokitasvara*)と觀自在(*Avalokitesvara*)」, 《佛教學報》第七十四輯 (2016, 3), 東國大學校・佛教文化研究院, pp. 73-95 (査読有)

辛嶋静志、「何為判斷疑偽經之根據: 以《孟蘭盆經》與《舍利弗問經》為例」, 《佛教文獻研究》第一輯 (2016, 6), 桂林: 廣西師範大學出版社, pp. 201-237 (査読有)

辛嶋静志、「誰創造了大乘經典——大眾部與方等經典」, 《佛光學報》新三卷・第一期 (2017, 1), pp. 1-86 (査読有)

辛嶋静志、"The Underlying Language of the Chinese Translation of the *Madhyama-agama*", in: Dhammadinna (ed.), *Research on the Madhyama-agama*, Taipei 2017: Dharma Drum Publishing Co. (Dharma Drum Institute of Liberal

Arts Research Series 5), pp. 197-207. (査読有)

辛嶋静志、"On Avalokitasvara and Avalokitesvara", in: *Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University*, vol. 20 (2017): 139-165. (査読無)

辛嶋静志、"On cha 刹, tjer and tera たら", 同 241-249. (査読無)

辛嶋静志、「「変」,「变相」,「变文」の意味」『印度學佛教學研究』65.2 (2017.3), pp. 208(732)-215(739) (査読有)

[学会発表](計 32 件)

辛嶋静志、"The Canonisation" of the Mahayana scriptures: When did the Mahayana sutras come to be called as such? (大乘仏典の聖典化--大乘経典はいつから大乘経典と呼ばれるようになったか) 2014年8月18日-23日: ウィーン大学で開催された国際仏教学会 (The International Association of Buddhist Studies) 第 17 回大会。(オーストリア)

辛嶋静志、「大乘経典は誰が作ったか: 方等経と大衆部」, 2014年8月31日: 日本印度学仏教学会第 65 回学術大会 (武蔵野大学有明キャンパス)

辛嶋静志、「試探《維摩詰經》の原語面貌」(『維摩詰經』の原語はどのようなものであったか) 招聘講演、2014年9月1日-2日: 台湾、仏光山および仏光大学で開催された「『維摩経』と東アジア文化」シンポジウム

辛嶋静志、「漢譯佛典語言研究的意義及方法」(漢訳仏典の言語的研究の意義と方法) 招聘講演、2014年9月3日-4日: 北京大学・国際漢学家研修基地で開催された“国際漢学研究之回顧与前瞻 我的漢学之路”(国際漢学研究の回顧と展望 私の漢学の道)シンポジウム

辛嶋静志、「文献考証が明らかにする仏教の本来の姿 孟蘭盆の本当の意味」, 招聘講演、2014年9月25日: 韓国学中央研究院 (韓国)

辛嶋静志、「Who Composed the Mahayana Scriptures?: The Mahasamghikas and Vaitulya Scriptures」(大乘経典は誰が作ったか: 方等経と大衆部)、招聘講演、2014年9月26日: ソウル大学 (韓

国)

辛嶋静志、金剛大学にて「大乘経典は誰が作ったか: 方等経と大衆部」、招聘講演、金剛大学 (韓国)

辛嶋静志、「The Tristubh-Jagati verses in the Saddharmapundarika」(《法華経》の Tristubh-Jagati 韻律) 2015年6月27日-7月3日: バンコクで開催された世界サンスクリット学会 (World Sanskrit Conference) 第 16 回大会 (タイ)

辛嶋静志、「Who Composed the Mahayana Scriptures?: The Mahasamghikas and Vaitulya Scriptures」(大乘経典は誰が作ったか: 方等経と大衆部)、招聘講演、2015年7月11日(土): 香港大学・仏教研究センター (香港)

辛嶋静志、「On Avalokitasvara (觀世音) and Avalokitesvara (觀自在)」(觀世音と觀自在について)、招聘講演、2015年7月12日(日): 香港大学・仏教研究センター (香港)

辛嶋静志、「利用“翻版”研究中古漢語演變 以《道行般若經》“異譯”與《九色鹿經》為例」(“翻版”を利用した中古漢語の変遷の研究 『道行般若経』の“異訳”と『九色鹿経』を例として) 招聘講演、2015年7月13日(月): 香港教育学院 (香港)

辛嶋静志、「觀音と觀自在」(韓国語) 招聘講演、2015年8月3日(月): 東国大学・仏教研究所 (韓国)

辛嶋静志、「大乘仏典研究の新視点: 古訳経典とガンダーラ語写本・中央アジア出土梵語写本との比較から見えるもの」, 招聘講演、2015年8月6日(木): 東国大学・仏教研究所 (韓国)

辛嶋静志、「《列子》與《般若經》」(『列子』と『般若経』) 招聘講演、2015年9月17日(木): 国立清華大学人文社会学院 (台湾)

辛嶋静志、「孟蘭盆之義—自恣日的“飯鉢”」(孟蘭盆の意味 自恣の日のご飯鉢) 招聘講演、2015年9月24日(木): 国立清華大学人文社会学院 (台湾)

辛嶋静志、「佛典語言及傳承」(仏典の言語と伝承) 招聘講演、2015年9月25日(金): 法鼓文理学院 (台湾)

辛嶋静志、「犍陀羅語與大乘佛教」(ガンダーラ語と大乘仏教) 招聘講演、2015年9月30日(水): 国立政治大学哲学系 (台湾)

- 辛嶋静志、「何為判斷疑偽經之根據—以《舍利弗問經》為例」(疑偽經と判断する根拠は何か 『舍利弗問經』を例として) 招聘講演、2015年10月1日(木): 国立清華大学人文社会学院(台湾)
- 辛嶋静志、「誰創造了大乘經典 --- 大眾部與方等經典」(大乘經典は誰が作ったか: 大眾部と方等經)、招聘講演、2015年10月3日(土)-4日(日): 佛光大学で開催された第二回『維摩經與東亞文化』国際シンポジウム(台湾)
- 辛嶋静志、「觀世音與觀自在」(觀世音と觀自在) 招聘講演、2015年10月5日(月): 佛光大学・仏学院(台湾)
- ⑳ 辛嶋静志、「《般若經》是在犍陀羅以犍陀羅語產生的嗎?」(『般若經』は、ガンダーラ地方でガンダーラ語で作られたか) 招聘講演、2015年10月7日(水): 国立政治大学哲学系(台湾)
- ㉑ 辛嶋静志、「利用“翻版”研究中古漢語演變—以《九色鹿經》為例」(“翻版”を利用した中古漢語の変遷の研究 『九色鹿經』を例として) 招聘講演、2015年10月8日(木): 国立清華大学人文社会学院(台湾)
- ㉒ 辛嶋静志、“On Avalokitasvara (觀世音) and Avalokitesvara (觀自在)” (觀世音と觀自在について)、招聘講演、2015年11月16日(月): サンクトペテルブルク・東洋写本研究所(ロシア)
- ㉓ 辛嶋静志、“Buddhismus als kulturelle Brücke zwischen Indien und China und die Forschungen von Walter Liebenthal” (インドと中国の文化的橋としての仏教とヴァルター・リーベンタールの業績) 招聘講演、2016年1月13日(水): ベルリン自由大学・孔子学院(ドイツ)
- ㉔ 辛嶋静志、“Who Composed the Mahayana Scriptures?: The Mahasamghikas and Vaitulya Scriptures” (大乘經典は誰が作ったか: 方等經と大眾部)、招聘講演、2016年1月15日(金): ハンブルク大学・アジアアフリカ学院(ドイツ)
- ㉕ 辛嶋静志、“‘變’、‘變相’及‘變文’之義”(「変」、「変相」、「変文」の意味)、2016年3月25日(金)-28日(月): 杭州、浙江大学で開催された「紀念蔣禮鴻先生誕辰100周年暨第九屆中古漢語學術研討會」(中国)
- ㉖ 辛嶋静志、「「変」、「変相」、「変文」の意味」(韓国語) 招聘講演、2016年8月

- 18日(木): 東国大学・仏教研究所(韓国)
- ㉗ 辛嶋静志、「「変」、「変相」、「変文」の意味」、2016年9月4日(日): 日本印度学仏教学会第67回学術大会(東京大学)
- ㉘ 辛嶋静志、「“變”、“變相”及“變文”之義」、招聘講演、2016年10月27日(木): 北京大学・宗教文化研究院(中国)
- ㉙ 辛嶋静志、「犍陀羅語與大乘佛教」(ガンダーラ語と大乘仏教) 招聘講演、2016年10月28日(金): 北京佛教文化研究所(中国)
- ㉚ 辛嶋静志、「《中阿含經》的原語」(『中阿含經』の原語) 招聘講演、2016年10月29日(土)~30日(日): 中国人民大学、第十屆漢文佛典語言学国際學術研討會(中国)
- ㉛ 辛嶋静志、「最古の大乘經典《法華經》成立再考」、2017年1月28日(土): 龍谷大学で開催された科研(基盤(B))「中央アジア仏教美術の研究 釈迦・弥勒・阿弥陀信仰の美術の生成を中心に」(代表: 宮治昭)2016年度第4回全体研究会(京都)

〔図書〕(計4件)

Buddhist Manuscripts from Central Asia: The British Library Sanskrit Fragments (BLSF), vol. III, 2 parts, ed. Seishi Karashima, Jundo Nagashima and Klaus Wille, Tokyo 2015: The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University. ISBN 978-4-904234-09-9, 978-4-904234-10-5

Buddhist Manuscripts from Central Asia: The St. Petersburg Sanskrit Fragments (StPSF), vol. I, ed. Seishi Karashima and Margarita I. Vorobyova-Desyatovskaya, Tokyo 2015: The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University. ISBN 978-4-904234-11-2.

Mahayana Texts: Prajnaparamita Texts (1), edited by Seishi Karashima, Youngjin Lee, Jundo Nagashima, Fumio Shoji, Kenta Suzuki, Ye Shaoyong and Stefano Zacchetti, Tokyo 2016: The National Archives of India, New Delhi and The International Research Institute

for Advanced Buddhology at Soka University, Tokyo (Gilgit Manuscripts in the National Archives of India: Facsimile Edition, vol. 11.1). ISBN 978-4-904234-13-6.

《佛典語言及傳承》(裘雲青等訳), 上海: 中西書局 (2016.12), 431 頁
[Languages and Transmission of Buddhist Texts, translated by Qiu Yunqing et al. into Chinese, Shanghai: Zhongxi Shuju, 431p.]. ISBN:9787547508978.

[その他]

ホームページ等

[https://sokauniversity.academia.edu/SeishiKarashi](https://sokauniversity.academia.edu/SeishiKarashima)

[ma](#)

http://iriab.soka.ac.jp/orc/staff/karashima/index_karashima.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辛嶋 静志 (KARASHIMA SEISHI)

創価大学・国際仏教学高等研究所・教授

研究者番号: 80221894

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号:

(4) 研究協力者

()